

## 桜の話題

### 1. サクラに依存するガ

桜餅にはオオシマザクラの葉の塩漬けが使われます。葉にタンニンなど摂食者が忌避する物質が含まれていません。多くの植物は被食されないようにシュウ酸など有毒物質を含むものが多いのですが、サクラの仲間はその手段をとっていないようです。代わりに葉柄や葉身の縁に蜜腺を作り、蜜源を守ろうとするアリに摂食者を排除してもらっています。

サクラは食べやすい葉ですので、ナナフシなども好んで食べますが、目だつのはガ類の幼虫です。光合成を始めたばかりの一番食べられたくない時期に大発生するのはウスバツバメガの幼虫です。アリの標的にならないように蜜腺から離れた葉身をまばらに食べます。光合成機能は維持してサクラへのダメージを少なくする効果があると思われます。



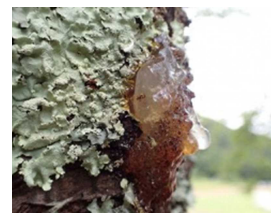
ウスバツバメガの食痕



モンクロシャチホコ幼虫

9月に入るとサクラは紅葉し、落葉を始めます。この時に大発生するのはモンクロシャチホコの幼虫です。大きな木でも全ての葉を食い尽くして丸裸にしてしまいます。サクラにとってはもうすぐ不要となる葉ですから蜜も出さないためアリのガードもありませんが、ダメージは少ないのです。色は黒く長い毛のある毛虫ですが、大量に捕獲できるため人類にとってタンパク源となる昆虫食の候補です。

コスカシバというガは変わっていて、羽化したときに翅の鱗粉を落としてしまうため成虫は透けた翅になります。幼虫がサクラを食べる部分は幹の材です。樹皮から内部に穿孔しますので、サクラはその部分には樹脂を分泌して守ろうとします。6月ごろサクラの幹からヤニをとって遊んだのはこの樹脂です。

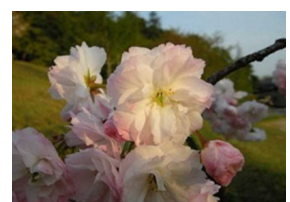


コスカシバの穿孔

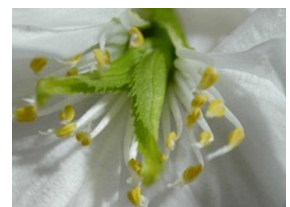
### 2. サクラの種と品種

タネではなく種類の種です。打吹山に自生するサクラはヤマザクラとカスミザクラがあります。ソメイヨシノよりわずかに早く開花するのはヤマザクラです。半月遅れの開花はカスミザクラですが、気温の影響を受けますので、山地去ると時期が異なってきます。展葉と開花が同時はどちらも一緒ですが、葉柄に毛があるものがカスミザクラです。

打吹公園には植栽された品種がいろいろありますが、展葉と開花が同時はオオシマザクラ系かヤマザクラ系、展葉より開花が先はエドヒガン系と思っています。近年の植樹は品種名の札がつけてありますが、古いものにはありません。オオシマザクラ系のサトザクラの品種は「関山(かんざん)」が最も多く植えられています。いわゆる八重の牡丹桜です。花を構成



関山



雌しべの葉化



有明

する萼、花卉、雄しべ、雌しべは葉の変化したもので、数種の遺伝子の相互作用で決まります。花卉の多いものは雄しべが花卉化したもので、雌しべが元の葉の形態になっているものもあります。椿の平上の遊歩道や陸上競技場斜面には一重で大輪の「有明(ありあけ)」もあり、関山とともに江戸時代の古い品種です

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2021)